

## 学習ポートフォリオ導入と学習項目の意識付け

倉沢 郁子

### 要旨

本稿は、関西外国語大学の留学生対象日本語プログラムにおいて、学習者の自律性の育成を目標に導入した学習ポートフォリオの実践報告である。学習ポートフォリオ導入についての学習者のコメント、及び学習者とのインタビューから、その使い方の特徴、そして学習項目の実際使用までのプロセスについて考察する。学習事項の実際使用が見られたケースとして、学習者が学習項目を使おうと意識せずとも実際使用まで至っている無意識的使用型、教室外で学習項目が実際に使われたのを聞いたことで理解を深めた受容認識型、周囲の助けをうまく利用して実際使用につなげているネットワーク型、何を言うかを準備してコミュニケーションに向かう準備型等が見られた。実際使用に至らなかったケースには、学習者の言語使用に関する選択や「言語的挫折」、学習者の情意的要因が理由として報告された。

【キーワード】 学習ポートフォリオ、学習項目の意識化、自律学習、動機付け

### 1. はじめに

本稿は、本学の留学生対象日本語プログラムにおいて、学習者の自律性の育成を目標に導入した学習ポートフォリオの実践報告である。学習ポートフォリオについての学生のコメント、及びインタビューから、その使い方の特徴、そして学習者自身が学習項目を教室の中における単なる学習事項から実際のコミュニケーションの道具に変化させられるか、学習者の意識の特徴、特に学習項目の実際使用までのプロセスについて考察する。

### 2. 先行研究

学習ポートフォリオは、1930年代に教育界に大きな影響を与えたデューイが説く

「経験を咀嚼して振り返るという作業に学習者が積極的に従事することが必要不可欠」という学習者参加型評価への流れを汲み（横溝 2002）、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR - Common European Framework of Reference for Languages）におけるヨーロッパ言語ポートフォリオ（ELP）、そして、近年では国際交流基金がその CEFR の考えを基礎にして作った JF 日本語教育スタンダード（以下 JFS）においても、学習ポートフォリオはその枠組みを構成する一つとされている。（国際交流基金 2017）

JFS におけるポートフォリオは 1) 評価表（自己評価チェックリスト、評価基準評価シート）、2) 言語的・文化的体験の記録（言語的・文化的体験と学び、自己目標学習計画振り返り）、3) 学習の成果（成果物一覧、作文・レポート・発表原稿など、プロジェクトの成果）で構成され、振り返りやすい形で学習を保存できるだけでなく、教師と学習者が学習目標と学習の過程を共有でき、そして日本語能力や評価の数値化が難しいとされる学習者の知識や技能、学習成果の評価も行うことができるとしている。また、「学習者が自己評価や体験を記録することで、課題遂行能力や異文化理解能力だけでなく、自律的学習能力や学習の動機づけを高めること」（JFS ウェブサイト）もできる。つまり、ポートフォリオで 学習への自律的な態度、自律的学習能力を高めることができると考えられる<sup>(1)</sup>。

### 3. 自律的学習能力とは

では「自律的学習能力」とはどのようなものであろうか。青木（2011）は、「学習者オートノミー」とは学習者が「自分の学習に関する意思決定を自分で行うための能力であるといってよいだろう。自分について自分で意思決定を行えるということは、学習の目的、目標、内容、順序、リソースとその利用法、ペース、場所、評価方法を自分で選べるということである」と述べている。実際の教育現場ではコースの担当教員がそれぞれのコース到達目標を設定するが、学習者がこの自律的学習能力を養えば、学習者の学習目的に合わせてクラス活動を自らの学習に取り入れ、学習動機をさらに高めることができるであろう。また、急速に変化する社会の中にあっても、生涯学習ともなりうる語学学習を自分で舵取りしていく力を養うこともできるだろう。

また大西（2006）は、日本語教育で必要なのは「社会において自分の考えを把

握し、表現するコミュニケーションの主体としての自律性」であると自律性の転換を提案している。「生きた社会的文脈の中で私はどう考えるのかを、常に問い、把握し、自己の価値観を社会において表現し、社会的状況を変革させていく力、それとともに自己を更新させていく力」を自律性とするならば、学習者は「自分の価値観を社会において表現していき、社会の中で人々とコミュニケーションをとりながら、自己を更新させていくこと」ができる。今回の学習ポートフォリオ導入においては、この「状況的学習論」(レイヴら 1993) 的視点も含めた自律的学習能力の養成を目指し、指導にあたった。

### 3. 調査協力者と調査方法

学習ポートフォリオを導入したコース、そして調査協力者の概要は以下(表1)の通りである。

表1 調査協力者概要

調査協力機関	本学留学生別科
調査協力者数	45名
調査協力者出身国	アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド フランス、エストニア、中国、台湾
使用教科書	総合日本語教科書「げんき2」 第18～23課
提出物	1)Language Portfolio 2)Cultural Information Sheet, 3)セルフチェックシート(文法) 4)成果物(宿題や発表のスクリプト等) 5)振り返りエッセイ(A4 1枚程度、英語または日本語)

調査機関は、本学留学生別科で、年間約700名程度の留学生が在籍している。留学生の主な出身国は北米で、本調査への協力者は初級後半クラスの45名。この協力者のほとんどがホームステイをするか、もしくはセミナーハウスに住んでいる。日本語の授業は週に3回、15週間、1コマ90分である(合計67.5時間)。日本語だけでなく、文化人類学や歴史、国際ビジネス、陶芸、Manga Drawing等のコースを英語で履修することができる。

学習ポートフォリオの成績は、教科書の副教材であるワークブック等と同様に、宿題として提出することで成績の一部とした(宿題が成績に占める割合は15%)。セルフチェックシートのみ各課修了後に提出してもらい、残りは全て学期末に提出

とした。振り返りのエッセイは、質問をこちらで用意した<sup>(2)</sup>が、自由に何を書いてもいいと付け加えた。

#### 4. 考察

以上のように行った学習ポートフォリオについて、提出物の内容、及び期末試験前に行った学習者との反構造化インタビューの内容から以下考察をまとめる。

##### 5.1. 学習者のポートフォリオ全体に対するコメント

まず、学習ポートフォリオ実践について感想を一言で述べてもらい（資料1）、次に自由にコメントもしてもらった。（資料2）肯定的なものから否定的なものまで様々な回答が見られたが、学習の記録から自分の成長が見られた場合に、肯定的な報告がされている。可視化されたことで動機付けされたことが理由として考えられる。一方、記録をつけること自体に意味を見いだせていない場合において否定的なコメントが見られた。

##### 5.2. セルフチェックシートの利用法

学習者ポートフォリオを構成するものは上記の通りだが、本稿は特にセルフチェックシートを分析に用いた。セルフチェックシートには、学習項目がリストされており、その項目に対して自分の理解を3段階でチェックする箇所とコメントを書く欄を用意した。学習者のセルフチェックシートの使い方には様々なものが見られたが、文法項目を使ったかどうかをチェックするのみのもの、実際にどのような場面で文法項目を使ったかを書いたもの、クラス外では学習項目を使っていないが自分で文法項目を使って文章を書いたもの、日本語で書いたものや母国語で書いたもの、そして文法の理解についてのみチェックがあり、コメントが全く見られないものもあった。

##### 5.3. 学習項目から実際使用へ

学習者が、教室内の学習を教室外での実際使用<sup>(3)</sup>につなげる際には、学習者の中でどのようなプロセスがあるのだろうか。学習項目が実際使用に繋がっている場合、繋がっていない場合、そこには何が作用しているのだろうか。

### 5.3.1. 実際使用につながっているケース

#### a)無意識的使用型

報告された実際使用には、新しい学習項目を知らずのうちに使っていたというケースが報告された。例えば、以下のような場合である。

報告例（著者訳）

- 「会話の中で、気がつかずにクラスで習ったばかりの文法を使っていた。使った後で、『あ、これは今習ったばかりの文法だ』と気がついた」
- 「クラスで習ってすぐ、クラスの5分後に友達に会いに行き、その文法を使ったという日もあった。ちょうどいい表現だったから…」

#### b)受容認識型

他に見られたのは、学習項目が教室の外で使われているのを聞いたことが理解への大きな助けとなり、その後実際使用に至ったという場合である。ある文法や語彙の使い方の実際使用に触れたことが理解への大きな助けとなったということだった。敬語表現の学習直後に公共交通機関のアナウンスが理解できた、アニメの中で聞いたフレーズがわかった等である。

#### c)ネットワーク型

学習者が周囲の助けをうまく利用し、実際使用が報告されるケースも見られた。

報告例（著者訳）

- 習った学習項目を使って日本人ルームメイトと冗談を言うことで使い方を覚えた
- 大抵日本人の友達と話す時に使った。たくさんの友達ではなく、2、3人仲良くなった人たちと。どこかに食べに行った時、自分でトピックを探して、「私の食べ方はちょっと変かもしれないけど…」（下線部：学習項目）
- 最初どこで使えるかを考えて、大体いつもホストファミリーと使う。何をクラスで習ったかを伝えると、ホストファミリーが教えてくれる。「～方」を勉強した時、「数え方を見せてください」「じゃんけんぽんの仕方」など、ホストファミリーが使い方をみせてくれた（下線部：学習項目）

#### d)準備型

教室外で学習項目を使う前に、実際に言いたいことを紙に書いて自分でシミュレーションしてから使用に至るといったケースも見られた。ある学習者は、学期がすすむにつれて、駅員との会話で事前に準備しなくても大丈夫だとわかり、自信につながったと報告があった。

#### e)その他

その他報告されたケースとして、ある表現を学習中に、以前うまく言いたいことを伝えられなかった場面を思い出し、今であれば同様の場面で学習事項が使えると過去の出来事と関連付けて学習、そして実際使用につながるといった事例も報告された。

### 5.3.2. 実際使用につながっていないケース

一方で、学習項目が実際使用につながっていないケースも見られた。その理由として、学習者の言語使用に関する選択や「言語的挫折」、学習者の情意的要因が報告された。

学習者の言語使用の選択については、ある表現を使う必要性が感じられにくいと学習者自らが学習項目を使わない選択をしていることがわかった。学習者が教室外で聞いたことがない表現は実際に使う必要がないと判断された事例、学習者の視点や感情の持ち方によって、ある表現（ここで報告されたのは、受身、使役、使役受け身の各文型）を使う必要がないという事例も報告された。他にも、敬語は友人としか話さない場合などは使う必要性がなく、文法によっては実際使用につなげたくてもできないという報告もあった。このような事例は、学習者が学習項目の使用に関して積極的に判断し選択を行ったためと考えられる。

また、話の流れは追っているが、自分が話す時にはどの文法項目を使ったらいいかわからない、文法は簡単だが適当な語彙が見つからず、結局話さずに終わってしまったという「言語的挫折」（山内 2015）、自信がないために、学習したことが使えなかったという情意面に関する報告もあった。

## 6. まとめと今後の課題

以上、学習者が学習項目をどのように教室外での実際使用につなげているか、そして言語使用についての理解を深めていく際のプロセスや傾向を分析した。

学習者のパフォーマンスに対して教育現場では評価が必要であるため、初級レベルでは「表現先行型」(山内 2015)の指導を取る場合が多く、必然的に文法や語彙を中心にした教室活動となる。本稿では、教室内で起きている明示的インプットと教室外で起きている暗示的インプットのつながりを意識させる指導として考えたのが学習ポートフォリオであったが、この活動が実際に学習項目を意識付けるきっかけになったかどうかは、さらなる分析が必要である。しかし、振り返る記録があるということは、これからの学習とどう向き合っていくかを考える材料が学習者にあるということでもある。教師は、学期終了時等のタイミングを見て、この学習の記録をうまく活用してもらおうよう促進することはできないだろうか。

学習ポートフォリオ実施に関する課題は多い。まず、学習ポートフォリオは、細かく記録をつけることが要求されるため、学習者によっては大きな負担を感じることがある。一方で教師側にも大きな負担がかかる。クラスのサイズによっては提出物の量を調整したり、クラス全体で学習経過を話し合う時間を設けることでその負担を軽減できるだろうか。電子媒体を学習ポートフォリオに取り入れていくことも考えられるが、プラットフォームの構築にはコストも時間もかかるため実現化は難しい。

学習ポートフォリオを使用した評価については、今回実践の対象となった2コースでの学習者の自己評価は、コースの最終成績に反映される割合が低い設定となっていたが、コースとして成り立たせるために誰が何を評価するのか(大西 2006)、自己評価の妥当性、そして教育現場の評価規定等から、コースにおける学習者自身の自己評価をどう取り扱えばいいのか、課題は多い。

本プロジェクトを通して、学習者が教室で見せる言語行動は彼らの能力の一部でしかなく、学習者の数だけ学習の方法、学習観、そしてコミュニケーションが繰り広げられる世界があることを再確認した。西口(2003)は「状況的学習論」の視点から、個々の学習者は日本語教室のメンバーであるだけでなく、その他のさまざまな実践共同体のメンバーであり、教室での学習が「さまざまな実践共同体を行き来

しながら生きている個人の相互作用を通して行われている」と捉えるのであれば、「教室活動が実践の場となっているか」が今後研究課題となると言っている。本実践報告で集められた実際使用場面のデータはロールプレイカード作成へとつなげ（鹿浦ら 2018）、実際使用の場面に少しでも「実践の場」を近づけるためにもデータの収集をしていきたい。

## 注

- (1) その他の学習ポートフォリオの効用として、学習者が自分のポートフォリオを他教育機関に持って行き、学習のアーティキュレーションに活用することも可能である。（国際交流基金 2017）
- (2) 用意した質問は次のとおりである。1) 今学期はどうでしたか。楽しかったことは何ですか。2) 今学期、やった！できるようになった！と思うことは何ですか。3) 留学の経験を何に生かしたいですか。4) これからの あなたの目標は何ですか？そのために、まず何をしますか。5) 今度日本に来る時は、何がしたいですか。6) 将来の自分へのメッセージ
- (3) ここで述べる実際使用は、JFS でいう「産出」、「受容」、「やりとり」の全てを含める。

## 参考文献

- 青木直子（2011）『学習者オートノミー—日本語教育と外国語教育の未来のために』シリーズ言語学と言語教育 ひつじ書房
- 大西博子（2006）「日本語教育における『自律性』の転換」『言語文化教育研究』第 5 巻 言語文化教育研究会 pp.25-41
- 国際交流基金（2017）『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』
- 鹿浦佳子・倉沢郁子（2018）「教室から実際使用へ ～ロールプレイカードを用いた口頭能力育成の試み～」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』第 27 号
- 西口 光一（2003）「日本語教育と状況的学習論」『日本語教育通信 日本語・日本語教育を研究する』第 21 回、国際交流基金
- 山内博之（2015）「学習者の話す力を伸ばすタスク先行型授業」『国際交流基金バンコク日本文化センター 日本語教育紀要』第 12 号 pp.1-16
- 横溝紳一郎（2002）「学習者参加型評価と日本語教育」 細川英雄編 『ことばと文化を結ぶ日本語教育』第 11 章 凡人社 pp.172 - 187



レイヴ, ジーン・ウェンガー, エティエンヌ (1993) 『状況に埋め込まれた学習—  
正 統的周辺参加』 佐伯胖 (訳), 産業図書

(kurasawa@kansai.ac.jp)

資料 1 学習ポートフォリオについての一言コメント

Great, Good, Awesome	5	Okay	1
Fun, interesting	5	Alright	1
Nostalgic, Memory, sentimental	3	Heavy	1
Reflective, reflection	3	Lacking	1
Meaningful	1	めんどくさい	1
Big	1	Unfinished	1
Pride	1	Report	1
Organized	1	Project	1
Rewarding	1	コメントなし・回収不可能	16
Impactful	1		

(全体数 45 名うち回答数 29 名)

資料 2 学習ポートフォリオについての自由コメント

肯定的コメント例

- I went over grammar and thought back to see how much I grew.
- It helped me keep track of what I use outside of the classroom how to make the most of experience in Japan (culture sheet), and I like to see how I've come over the semester. :)
- Because it forced me to document my learning and life experiences so I can look back and see how much I have progressed over the semester.
- Talking about what was in my portfolio helped me to improve my study habits
- It encouraged me to use more grammar points and reflect on past usage of them.
- Personally, it helped me emotionally and reminds me why I chose to study Japanese. However, it may not helpful as mine for a more logical person.

否定的コメント例

- It was mostly busy work for me, rather than helping me keep organized.
- Although it was interesting to keep track of my experiences, it was troublesome trying to keep track of exact dates. It helped me consciously practice, though concepts such as *Keigo* were hard to use in daily conversations.
- I didn't feel like I used it for my learning experience. Something I had to do, rather than that help me.